

家庭教育学級における親学び講座

令和4年6月17日（金）

茨木市立中津小学校の家庭教育学級において、茨木市の親学びサポーターの方々による親学び講座が実施されました。今回は、親学習教材「ほめる」を活用し、日ごろの子どもとの関わりについて考えました。

導入

初めに、親学習の4つのルール「時間」「参加」「尊重」「守秘」を確認しました。ルールの確認後、アイスブレイキングとしてファシリテーターが提示した質問について当てはまるか当てはまらないかでグループ分けをし、それぞれのエピソードを語り合いました。「コロナ禍で大変だったのは料理？」や「癒されるのは動物？」など日頃の何気ない質問について話すことで、参加者のみなさんの気分がほぐれていきました。

そして、ペアになり、名札に事前に書いていた自分のプチ自慢について、ルールにあった「尊重」の視点で話を聞き合いました。



グループワーク

まず、親学習教材「ほめる」のエピソードを読んで気になることについて、ペアで話し合いました。「親に反対されているのにコンサートに行ったのが気になる。」「バスもなくなって歩いて帰る時間なのに迎えに行かないのは、親子の関係性が崩れているのかな。」「でも、遅くなくても鍵を開けているのはやっぱり心配なんだよね。私なら閉めてしまうかも。」など初めはエピソードの内容について話していたのですが、気づくと自分の子どもの気になる事について話が広がっていきました。その後、各グループでそれぞれのペアで出た話について意見の共有が行われました。

次に、「自分の子どもの気になる所を長所にかえる」というワークショップを行いました。子どもの気になる所を黄色の紙に書き、模造紙に貼っていきます。次に、違う人が書いた子どもの気になる所を長所として捉えるとうなるかを考え、ピンクの紙に書いて黄色の紙の下に貼っていきました。「下の子にきつくあたる」が「下の子とよく遊んでくれている」というようにプラスの見方になりました。すると、「優しくしてあげて」と叱っていたことが「いつも遊んでくれてありがとう」と自然にほめることができると気づくことができました。



振り返り

最後に、全体で意見の交流をしました。「ほかの人の子育てについて聞いて参考になった。自分もやってみたい。」「親が毎日の忙しさに追われ、心に余裕が無いと子どもの気になる行動にイライラしてしまう。」「ほめるのは難しくても、あった言葉をかけてあげることを心がけたい。」などの意見が出ました。締めくくりとしてファシリテーターから、「お母さんの心が落ち着くのはすごく大切なこと。今日の自分にご褒美を何かあげてください。」と参加者への声かけがありました。参加者は、自分の頑張りへの労いの大切さを感じ、自分自身をほめて、子育てへの前向きな気持ちづくりの時間となりました。